

第3回有識者懇談会における委員からの意見と対応

参考資料 4

項目	意見	意見への対応(案)	掲載ページ
1 二つの分科会	2つの分科会から出た意見は共通しているところもある。それを確認し、さらに議論を深めていくとよいのではないか。	今後、具体的な施策の検討と合わせて整理する。	—
2 「若者の圏外流出」分科会の提言	若者の圏外流出分科会の提言で「就業・就農を考える若者に対して」とあるが、これだけを見るとミスリーディングになる可能性が懸念される。その時の話として起業の話が少し入っていたと思うが、若者に戻ってきてもらうのは必ずしも起業する方々ばかりではない。また、農業をする方に限っているわけでもない。ここで「就業・就農」と別々にすると農業を重視しているというように捉えられてしまう可能性があるのではないだろうか。もし入れるのであれば、「起業」という言葉を入れる方が「中間支援組織に入っていたら若者の起業を支援する」ということでもう少し具体的になるのではないだろうか。就農と「農」だけを入れるというは少し違和感がある。	資料3-1 「若者の圏外流出」分科会の提言文の“就農”の記載について分科会座長の確認を得て提言文を修正。	資料3-1 P5
3 「若者の圏外流出」分科会の提言	第一次産業には漁業や林業もある。「就農」とすると農業にだけ目を向けているように捉えられる。	資料3-1 「若者の圏外流出」分科会の提言文の“就農”の記載について分科会座長の確認を得て提言文を修正。	資料3-1 P5
4 「若者の圏外流出」分科会の提言	分科会の議論では、圏外に出ていかないようにする施策ではなく、圏外に出ていってもまた戻ってくるような施策が大事であると、皆が一致した意見だった。地元に着き、地元のために将来貢献したいと思える人をどう育てるかということが重要であると思う。	資料3-1～3-3 将来像の具体的な状態に「自分たちが住む地域に着き、地元に着き、地元に着き」を追加する。	資料3-1 P10 ほか
5 「若者の圏外流出」分科会の提言	分科会でタイムパフォーマンスの話をしたが、若者と中高年世代の意識が違う、乖離があるということあまり記載がなかった。 タイムパフォーマンスということを見ても、今までの慣習のまま人と会うことを重視するのではなく、大切な人と会う時間を重要視してそこに時間を使いたいという気持ちが大事なことだ。ただ会えば良い、というわけではなく、そこでオンラインをうまく活用しようという趣旨の話をした。 対面ということに対する意識が世代によって違う場合があるので、そこで乖離が起こっている。そのために上の世代がある程度意識を変えていく必要がある。	資料3-3 第1章2(1)に「・オンライン会議の活用などデジタルの進展に伴って多様化する価値観の受入れ」 第3章に「・テレワークやオンライン会議等の普及により、効率的な時間の使い方ができるようになり、「自分時間」がつけられる暮らし方・働き方ができる地域が実現」 第4章1(1)に「・リアルでの対面を充実させるテレワークやオンライン会議等のデジタルの活用」を追加する。	資料3-3 P5、P11、 P13

第3回有識者懇談会における委員からの意見と対応

参考資料 4

項目	意見	意見への対応(案)	掲載ページ
6 全体	若者の圏外流出分科会で出てきていた意見で、若者たちに知ってもらうことが重要であるということが何個も提言に載っていて、それを謳っているのがもしこの13ページの例えば施策の「(1)デジタル活用による圏域の食料供給力と地域ブランド力のさらなる強化」、「(2)産官学及び企業間の連携とデジタル技術の活用によるものづくり産業の競争力強化」となるのならば、これはどちらもデジタルを使ってのみ若者に発信するということになってしまうので、すべてオンデマンド教材とかりモートで説明するということになってしまい、対面もここには入ってくるべきで、デジタルを加えたからこそデジタルだけ浮かんできている。施策の表現の問題だと思う。	「(1)デジタルの活用等による圏域の食料供給力と地域ブランド力の更なる強化」に修正 「(2)産官学及び企業間の連携とデジタルの活用等による競争力強化とイノベーション創出、企業環境の醸成」に修正	資料3-1 P15 ほか
7 全体	資料の中で「デジタル活用」「デジタル技術の活用」という三つの表現がある。	資料3-1及び資料3-3 第4章2(1)、(2)の表現を「デジタルの活用等」に修正する。	資料3-1 P15 ほか
8 将来像の具体的な状態	「自分たちが住む地域に愛着が持てる地域づくり」を将来像の状態に加えてはどうか。	資料3-1～3-3 将来像の具体的な状態に「自分たちが住む地域に愛着が持てる」を追加する。	資料3-1 P10 ほか
9 環境	「脱炭素」とか「地域循環共生圏」などという部分について将来像の状態として弱い。	資料3-1～3-3 将来像の具体的な状態に「地域循環共生圏、脱炭素社会が実現」を追加する。	資料3-1 P10 ほか
10 観光	最近、観光のスタイルが変わってきている。物見遊山というよりも農村風景などが目的化している。また、移住定住もそういったところのファンづくり、お祭りへの参加などから移住定住が行われている。	資料3-1及び資料3-3第4章4「交流・関係人口の創出」の目標の具体像として、(3)「様々な機会・手段を駆使した北陸のファンづくり、関係人口の拡大」を追加する。	資料3-1 P17 資料3-3 P20
11 海上物流	国際物流については、ダイレクトに海外につながっているというよりも、いろいろな港を寄りながら最後は海外に出荷するという動きもある。北陸は日本海側の中間地点として重要な役割がある。そういったところも触れておくとよい。	資料3-3 第4章3(1)日本海沿岸圏域及び太平洋側圏域との連携強化のための物流・交通ネットワークの充実に、「国内海上輸送網の拡充により、日本海側における内航輸送の中核的な役割を担う。」を追加する	資料3-3 P19
12 海上物流	内航フィーダーについて触れるということも重要。この1、2年の間に北陸でも内航フィーダー航路が開設されてきているし、これまでの釜山積み替えというところも変わってきている。		

第3回有識者懇談会における委員からの意見と対応

参考資料 4

項目	意見	意見への対応(案)	掲載ページ
13 全体	いろいろなところで「デジタルを活用して」と書いてあるが、あまり具体性のない形で「デジタルを活用」と多用している感がある。「具体的にどのようなことをどのように活用して…」ということを書いておかないと、便利な修飾語となるだけで、具体的な施策に繋がっていかないのではないと思われる。どのようなデジタルをどのように活用し、そのために必要となる準備は何かということを書いておくべき。	今後、具体的な施策の検討と合わせて整理する。	—
14 全体	「三大都市圏に近接し」とメリットとして書かれているが、逆にデメリットにもなりうる。北陸圏に魅力が無いと吸い取られてしまうばかりとなる。よりよくするために何をすればよいか、具体化するためのキーワードを一つずつ入れておくとよい。	今後、具体的な施策の検討と合わせて整理する。	—
15 まちづくり	「コンパクトなまちづくり」とあり成果をあげているが、市内をコンパクト化しても、周辺部にもそれなりに人は住んでいて、公共交通などが手当されないまま放置されているところがある。それに対して「デジタルを活用した地域生活圏の形成」とあるが、どのように効果を現すのかよく見えない。コンパクトなまちづくりの部分にはほとんどデマンド交通は必要なく、皆が公共交通で移動できているからよいではないかというようになる。実際は免許返納等で困っている交通弱者化している(周辺部の)高齢者の問題で、コンパクトな街づくりが結局、住みにくい田舎を作り出しているように感じている。コンパクトなまちづくりの対極側にあるような散逸した田舎に対して、「暮らし続けるためのサービスの提供」の手当というものが具体的に組み込まれると、「最後まで住んでもよい田舎」というような場所が作れると思う。	資料3-3 第4章1(2)に「小さな拠点を核とした集落生活圏の形成、都市コミュニティの再生」を追加する。	資料3-3 P14
16 カーボンニュートラル	分科会の提言で「デジタルの活用によるカーボンニュートラルの実現や資源の地域循環の取り組み、並びにエネルギー管理の取り組みが重要である。」とある。この表現自体は何ら問題ないが、北陸圏ならではということ、具体的にデジタルを活用して何をするのか示す必要がある。	今後、具体的な施策の検討と合わせて整理する。	—
17 カーボンニュートラル	カーボンニュートラルの取り組みとして「潜在的な水資源」と示されているが、むしろ小水力よりも風力のほうがカーボンニュートラルとしては大きい。もう一つ踏み込んで、具体的にどのような資源をどのように活用するのか示されるとよい。	今後、具体的な施策の検討と合わせて整理する。	—
18 農業	「デジタル活用による圏域の食料供給力と地域ブランド力の更なる強化」とあるが、今、国をあげて「緑の食料システム戦略」という持続可能な農業の推進を進めているので、ぜひこのところに「持続可能な食料システム」の構築があるとよい。	資料3-3 第4章2競争力のある産業の育成「◆食料の安定供給と農山漁村の活性化」のキーワードに、「持続可能な食料システムの構築」を追記	資料3-3 P17

第3回有識者懇談会における委員からの意見と対応

参考資料 4

項目	意見	意見への対応(案)	掲載ページ
19 関係人口の拡大	目標4「交流・関係人口の創出」とあるが、交流という地域内外の人材交流や世代間を超えた働きかけや学び、観光に関わらない二拠点居住やワーケーションなど、様々な交流の場が考えられるが、ここでは外からの観光に特化したようになっている。もう少し書き加えてはどうか。	資料3-1及び資料3-3第4章4「交流・関係人口の創出」の目標の具体像として、(3)「様々な機会・手段を駆使した北陸のファンづくり、関係人口の拡大」を追加する。	資料3-1 P17 資料3-3 P20
20 産業競争力	目標2「競争力のある産業の育成」について、農林水産業やモノづくりとあるが、若者の議論の中でベンチャーであるとか既存の産業以外のところを如何に増やすかという話があった。ベンチャーの支援、起業支援というところも施策の一つとしてあるとよい。	資料3-1及び資料3-3第4章2「競争力のある産業の育成」のうちの「(2)産官学及び企業間の連携とデジタル技術等の活用による競争力強化とイノベーション創出、起業環境の醸成」に修正	資料3-1 P15 資料3-3 P17
21 観光	観光関連についてもデジタルの活用というキーワードがあるとよい。	資料3-3 第3章4(1)「◆自然・歴史・文化を活かした地域個性の構築と魅力ある観光地の形成」のキーワードとして「デジタルを活用した情報発信」を追加する。	資料3-3 P20
22 将来像の具体的な状態	「就きたい仕事」という表現があるが、自分の「挑戦しやすい仕事環境がある」という表現のほうが若い人には響くと思う。	資料3-1～3-3 将来像の具体的な状態に「挑戦したい仕事があり」を追加する。	資料3-1 P10 ほか
23 産業競争力	「既存産業の強化」もあるが、「新規産業の育成」「新しく挑戦しやすい」という要素も入れるとよい。	資料3-1及び資料3-3第3章2「競争力のある産業の育成」のうちの「(2)産官学及び企業間の連携とデジタル技術等の活用による競争力強化とイノベーション創出、起業環境の醸成」に修正	資料3-1 P15 資料3-3 P17
24 産業競争力	新規産業という意味で「スタートアップエコシステムの構築」と書いてあるのかもしれないが、「スタートアップエコシステム」という意味合いが違うように思える。「起業環境の育成」とか「起業環境の醸成」とかが適当ではないか。	資料3-3 第3章2(2)において「◆イノベーションを生む多様な人材・知・産業の集積、産・学・研との連携による起業環境の醸成」に修正	資料3-3 P17
25 全体	全体を通して、「北陸らしさ」があまり感じられない。個人的な考えとして「北陸らしさ」とは、一つはコンパクトで串に刺さった団子のような構造となっている。これは他の圏域にはない構造である。もう一つは雪だと思ふ。雪は災害の基にはなるが、同時に恵にもなるので、メリットの部分を押し出していくということが全体を通して各所にちりばめられているとよい。	資料3-2及び3-3の第2章将来像の位置付けに「～立山・白山連峰から流れる清冽な水と日本海の恵を受け、雪や雄大な景色の中で育まれた暮らし・文化への誇り・愛着を抱きながら、生活の質・産物の魅力の更なる向上と、人々のつながりの一層の強化により、豊かな未来を創造する北陸圏～」を加えるとともに、「雪」などの北陸らしいキーワードを加える	資料3-3 P10 ほか

第3回有識者懇談会における委員からの意見と対応

参考資料 4

項目	意見	意見への対応(案)	掲載ページ
26 全体	地域のブランド化、ブランディングを積極的に進めていくとよい。案だと、農林水産物のところにブランド化という言葉が出てくるが、これは交流人口にしても産業にしても、住みやすい地域づくりにしても、すべてにブランド化があってよいと思う。	今後、計画本文作成の際に意見の反映を検討する。	—
27 全体	「多様な価値観」という言葉が入ってくるが、多様なという言葉がありきたりな表現だと思う。若者の分科会の議論でも「古い価値観にとられるのはやめるべきだ」というのが議論の方向だった。よって、「新しい価値観やライフスタイルを生み出しつつ…」とか、「変化する価値観を積極的に取り込みながらこういう暮らしができる地域」といったほうが、より今回の分科会の議論を踏まえた表現になると思う。	「新しい価値観」も多様な価値観に含まれるので骨子は変更しない。	—
28 産業競争力	産業のところで「海外からの回帰」が書かれており、それでも悪くはないが、昨今の情勢からもう少し踏み込んで、「国際情勢や地域情勢の変化に対応していく企業をしっかりと支援していく体制づくり」というように、これからの情勢変化にも対応していかなければならない企業をきちんと支援していくという施策が重要と考える。	資料3-3 第4章2(3)の「◆海外や国内他地域からの企業の製造拠点・本社・研究開発・研修機能等の誘致や人材育成、誘致による地域産業の活性化」のキーワードに、“国際情勢の変化に対応していく企業の支援”を追記	資料3-3 P18
29 まちづくり 賑わいづくり	新幹線の駅を核としたビジネス空間、にぎわい空間を作っていくことをもっと打ち出してはどうか。第三次産業を考えたときに、あるいは交流人口や若者にとって魅力的な地域づくりといった観点からも重要と考える。	資料3-3 第4章1(2)「◆中核都市を中心としたコンパクト＋ネットワークづくりと接続型都市圏の形成」と、P18「交流に必要な交通基盤、社会基盤整備」のキーワードに、“新幹線駅を核としたビジネスとにぎわいの創出”を追記	資料3-3 P14
30 関係人口の拡大	交流人口・関係人口については、交流人口の概念に引きずられたままという印象がある。インバウンドとか外からの観光客に来てもらうという施策が並んでいるが、関係人口のつながりを幅広くとらえて、例えば施策として「国内外に北陸ファンを増やしていく施策」とか「北陸出身者やゆかりのある人との関係維持を図っていく施策」などもよいと思う。	資料3-1及び資料3-3第4章4「交流・関係人口の創出」の目標の具体像として、(3)「様々な機会・手段を駆使した北陸のファンづくり、関係人口の拡大」を追加する。	資料3-1 P17 資料3-3 P20
31 産業競争力	「競争力ある産業の育成」に関し、北陸はニッチ産業に強いこと、中堅企業が多いことが特徴となっており北陸の強みだと思う。北陸でしか作れないものも多くあり、技術も同様。ニッチを表すよい言葉として「創造産業」はどうかと考えた。「創造」とか「ニッチ」など、北陸の強みとして打ち出していくとよい。	資料3-2及び資料3-3 北陸圏の将来像の位置付けの前文に「豊かな未来を創造する北陸圏」と記載。今後、計画本文作成の際に意見の反映を検討する。	資料3-3 P10

第3回有識者懇談会における委員からの意見と対応

参考資料 4

項目	意見	意見への対応(案)	掲載ページ
32 防災	<p>「防災」に関して、地域コミュニティ、自主防災組織により、助け合いながら減災に対応していくということはよいが、一方で、地域の人口減少等により、地域活動の担い手確保が課題となっている。そういった中で「地域コミュニティ、自主防災組織」にだけ頼るとするのはカバーし切れていないように思う。</p> <p>学生ボランティアのように少し違う形で助け合えるものも取り込みながらやっていく、住民任せは厳しいというニュアンスも入れていくとよい。</p>	<p>資料3-3 第4章1(3)「◆減災に資する地域コミュニティを活かした体制の構築」のキーワードに、“人口減少や高齢化による地域防災力の低下をフォローするための仕組みの構築(ボランティアの活用等)”を追加</p>	<p>資料3-3 P15</p>
33 全体	<p>企業は、地球環境へのやさしさ、ネットゼロカーボン、自然資源の保護、ダイバーシティ、人権、エクイティ(公正さ)等の面で、大きなプレッシャーを受けるようになってきている。プレッシャーに対する解を提供できれば地域に呼び込める。</p> <p>北陸圏域においては、そうした環境変化を強みへと転換できるポテンシャルが多くあるのではないか。</p>	<p>今後、計画本文作成の際に意見の反映を検討する。</p>	<p>—</p>
34 教育、人材育成	<p>北陸圏のように生活環境が豊かな地域において、域内の若者人口を左右するのは、域内に付加価値の高い専門的な仕事をどれだけ創り出せるかにかかっている。そうした仕事を地域に呼び込む上で、デジタルに関する専門的学習を徹底して進めることが重要。地域内で学習意識を高め、学習環境を整えることが必要となる。</p>	<p>今後、計画本文作成の際に意見の反映を検討する。</p>	<p>—</p>
35 人材育成、産業競争力	<p>リアルな接触が重要な知識分野も存在する。</p> <p>北陸圏域には、特色を持つ大学が多数、立地しており、圏域内の大学を知識拠点と捉え、起業支援も含めて、従来よりも多様な形で活用していくべき。</p>	<p>資料3-3 第4章 2(2)「◆イノベーションを生む多様な人材・知・産業の集積、産・学・研との連携による起業環境の醸成」のキーワードに、“起業支援”を追記</p>	<p>資料3-3 P17</p>
36 教育、人材育成	<p>キーワードのひとつにリスキリングがあるが、いろいろな学びの機会をいろいろな世代に提供していくことがUIJターンの推進にもなる。北陸の教育機関が連携して取り組めるとよい。</p>	<p>今後、計画本文作成の際に意見の反映を検討する。</p>	<p>—</p>
37 産業競争力	<p>風力発電事業からは日本の企業が撤退していると聞いた。北陸にあるニッチな企業などが時代の流れに対応していく、企業の力を違ったところに展開していくといったところを北陸の皆で考えていけるとよい。</p>	<p>今後、計画本文作成の際に意見の反映を検討する。</p>	<p>—</p>
38 産業競争力	<p>1次産業、2次産業が北陸にはしっかりとあるので、6次産業化できるとよい。ベンチャー企業のスタートアップにもつながる。</p>	<p>資料3-3 第1章1 及び第4章2(1) 第一次産業のキーワードで「6次産業化と輸出促進」の記載あり。起業にもつながることについて、計画本文作成の際に反映を検討する。</p>	<p>資料3-3 P17</p>

第3回有識者懇談会における委員からの意見と対応

参考資料 4

項目	意見	意見への対応(案)	掲載ページ
39 エネルギー	エネルギーに関して、北陸では「雪」の活用が期待される。	今後、具体的な施策の検討と合わせて整理する。	—
40 関係人口の拡大	関係人口に関して、地域でどのようなイベントがあるのか、「関係したい人」にうまく伝えることが重要。都会の人や他地域から来ている学生等にうまく伝わるような情報発信の仕組みがあるとよい。	資料3-3 第4章4「◆体験型滞在の充実、ワーケーションへの取組強化、関係人口の拡大」のキーワードに、“効果的な情報発信に関する仕組みづくり”を追加	資料3-1 P17 資料3-3 P20
41 防災	防災に関して「地域力を高める」「レジリエンス」をキーワードに用いて、どのように共同体として地域の力を上げていくか、その前提として人口減少による地域の脆弱化が進んでいることをもっと表現すべき。 限られた人口の中でどのように地域力、レジリエンスを上げていくのが肝心であるが、地域のいろいろな人が地域の課題に対して積極的・主体的に関わっていくという機運を作っていくことという意味でシチズンシップ教育が重要。	資料3-3 第4章1(3)「◆減災に資する地域コミュニティを活かした体制の構築」のキーワードに、“人口減少や高齢化による地域防災力の低下をフォローするための仕組みの構築(ボランティアの活用等)”を追加	資料3-3 P15
42 地域学習、人材育成	資料3-②の課題のとして、「若者が地域のことを知らない」「若者に限らず地域の愛着に繋がるような地域の良さや資源を知らない」「課題についても知らない」。そういったものを対話を通して学習・啓発していくことが重要ということを書き込んでもらえるとありがたい。シチズンシップ教育や防災教育、脱炭素地域教育、気候変動教育などが推進されている。	資料3-3 第1章2「◆地域の資源・魅力などが学べる環境整備が必要」に修正 また、上記のキーワードに、“総合学習やシチズンシップ教育、防災教育、脱炭素地域教育、気候変動教育などの機会、対話を通して地域学習・地域課題への取組を啓発していくことが重要”を追記	資料3-3 P5
43 女性活躍	第3章の将来像のところでは、男女共同参画をキーワードとして、ジェンダー平等とか寛容さ、幸福実感、といったものが今までの議論ではあったが、いつの間にか消えていっているので残して欲しい。特に女性は、働きやすさという就労問題だけではないので、地域に根ざした深い問題を根本から変えていくように、新しい価値観を積極的に受け入れていったり作っていくという切り口を大きく示していくことが重要。	男女平等参画、ダイバーシティの推進、多様な価値観の受け入れ等について計画に盛り込む。	—
44 若者の圏外流出	二つの分科会でとりまとめ・提言を頂いた。特に若者の分科会では、4人の高校生・大学生から生の声を聞かせてもらった。拝聴して最近の学生の考えに感心させられた。頂いた意見等も分科会の中で採り入れられたものと思う。	なし	—

第3回有識者懇談会における委員からの意見と対応

参考資料 4

項目	意見	意見への対応(案)	掲載ページ
45 若者の圏外流出	委員から話があったが、若者を囲い込むのではなく、一度外の世界を見たいという、地元・北陸の良さを再認識してもらうことで帰ってくる、戻ってきてもらう。そのためには出て行く前に地元・北陸の良さを知ってもらうことが大事。そのためにシチズンシップ教育などが大事だと思う。総合学習もあるが、学校の先生の負担が大きくなるといけないという話もあり、それを企業や行政、地元のPTAなどにより支援できる仕組みを作ることが重要と思う。	資料3-3 第1章2「◆地域の資源・魅力などが学べる環境整備が必要」に修正 また、上記のキーワードに、「総合学習やシチズンシップ教育、防災教育、脱炭素地域教育、気候変動教育などの機会、対話を通して地域学習・地域課題への取組みを啓発していくことが重要」を追記	資料3-3 P5
46 まとめ	SWOT分析をきちっとしてもらったことにより、施策を考えるうえで明快に根拠が示されたことになっているし、「強み×機会」などにより施策を組み上げていくうえでわかりやすくなったと思う。委員からは足りない部分やニュアンスが違うといった意見もあったが、それでも整理をするという部分では効果的な方法の一つではないかと思う。	なし	—
47 関係人口の拡大	特に、北陸の強みを活かすために関係人口を増やすということはいろいろなところに出てくる。「輪島の千枚田」では応募者が定数を超えたとの報道があったが、農業ばかりではなく、漁業も林業も担い手が不足し、人の手を借りたいところは北陸には多い。 人の手が必要となる場所での解決の方法のひとつが関係人口という人の力ではないかと思う。 行政の支援も必要と思うが、北陸でそのような仕組みが作っていくというのが一つの方策だと思う。	資料3-1及び資料3-3第4章4「交流・関係人口の創出」の目標の具体像として、(3)「様々な機会・手段を駆使した北陸のファンづくり、関係人口の拡大」を追加する。	資料3-1 P17 資料3-3 P20
48 デジタル活用	デジタルに関して意見があったが、私の個人的な意見としては今の段階では具体的なデジタル技術とかはあまり明確にしなくて、「デジタル活用」、「デジタル技術の活用」で止めておいてよいのではないかと考えている。もっと深いところや細かいところで書くところがあれば書くのは良いと思う。なぜかというデジタル技術は日進月歩なので、今たとえ具体的な方向を書いたとしても数年後には陳腐化しているということがあり得る。よって、キーワード的な言葉でよいのではないかと思う。	計画本文(骨子)には具体的なデジタル技術を踏み込んで記載しないこととする。	—
49 地域学習、人材育成	今、高校生が探求学習の時間を増やすようにという文科省の流れもあって、いろいろな高校が取り組んでいる。地域に出て行って課題解決型のまちづくりをしようと地域のいろいろな主体、ステークホルダーの大人の団体と高校生がまちづくりを学んでいくということが各地で広がっている。その中で坂井市でもまちづくりカレッジを通して高校生が学んでいるが、彼らは本当に変わっていく。そして自分たちの地域のことを今まで知らなかったことを実感して自分の意見をまとめ発表できるように力をつけている。今はとてもチャンスが多い時代になってきていると思うし、高校生でこのような学習をして意識が変われば、仮に彼らが首都圏の大学に進学したとしても自分のふるさとの目や意識は変わってくるのではないかと思う。今とても大事なターニングポイントにあることを申し添えたい。	今後、計画本文作成の際に意見の反映を検討する。	—